

情報は名古屋デスクへ

TEL052(561)5212 FAX052(561)5207

購読のお申し込み

0120-605-1231 0時~18時(日・祝日除く)

WEBでのお申し込み

http://www.chukei-news.co.jp

不動産賃貸仲介・管理・売買
名古屋の部屋探し

おへやさがしは、自分さがし。

部屋セラ

052-433-3131

IS POINT

補聴耳カバ」開発

共鳴で聞き取りサポート

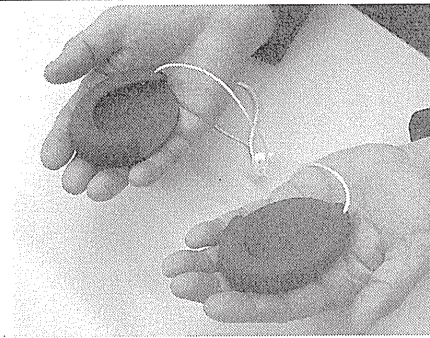
中部デザイン研究所

プロダクトデザインの中中部デザイン研究所(本社名古屋市中区栄、渡辺俊生社長、電話052・204・3570)は、高齢者向けの補聴耳カバ「私のミミ」を開発した。共鳴作用により高音を強調することで、音の聞き取りをサポートする。オリジナル福祉商品の第1弾として、7月下旬から販売を開始する。3年間で1万セットの販売をめざす。



渡辺俊生社長

介護機器販売を手掛けるテクノ・マイス(本社浜松市)が発案し、相談を受けた中部デザイン研究所が製品化に向けて試作開発を行った。私のミミは樹脂製のカバーで、ヘッドホンのように耳に掛けて使用する。一般的な人間の聴力は、老化によって60歳ごろから2千ヘルツを超えると高音に対する感度が鈍くなるという。カバー内部で生じる共鳴作用を利用するこ



開発した補聴耳カバ「私のミミ」

とで、高齢者でも聞き取りが可能になる2千ヘルツ周辺の高音域を強調し、残存聴力を生かす形で日常会話などの音

作業スペースを拡張

天白製本紙工社と差別化へ



上野恭嗣社長

製本加工業の天白製本紙工(本社名古屋緑区鳴海町母呂後、上野恭嗣社長、電話052・622・3970)は、作業スペースを拡張、幅広い受注に対応できるように体制を整えた。インターネットを通じて一般顧客の小ロットからの相談にも柔軟に対応することで、他社との差別化を図る。

昨年10月、手狭になっていた名古屋市中区天白の本社を現住所に移転。敷地面積をこれまでの3倍に相当する約560平方メートルに拡張した。作業スペースや保管ス

ペースを確保し、より多くの受注に対応できるように整備したほか、作業効率の向上も図った。同社は、印刷会社を通じて製本・折加工の注文を受けているが「顧客ニーズが多様化しており、これまで通りのやり方では機会損失につながってしまう」と(上野社長)として、インター



緑区にある本社

ネット上で一般顧客から直接、製本や折加工に関する相談を受ける窓口を設けた。作品集や卒業制作など他社で断られた特殊な素材

ニーズを取り込む。上野社長は「顧客の要望により柔軟に対応できる体制を整えることで、差別化や独自化を進めていきたい」と話している。

また、東海地方ではあまり導入されていない「PU R製本機」を所有。より熱に強く、耐久性の高い製本加工ができる点をPRし、幅広い顧客

の聞き取りを助ける。名古屋工業大学で実施した音響解析では、私のミミを使用することで2千ヘルツ周辺の音に対して、正面方向では約14dB、全方向平均で約11dBの強調効果があることを確認した。

電子式補聴器とは異なり、電源や細かな設定・調整も不要で、耳に掛けるだけで気軽に使用できる点が特長。軽量の軟質素材のため、長時間利用した場合でも疲れにくい。希望小売価格も1980円(税別)とリーズナブル。聞こえ具合が気になり始めた高齢者の

室内での利用を想定している。7月下旬から、量販店などでの販売を予定している。販売代理店による展開や、インターネットサイトの活用なども今後詰めていく。中日ドラゴンズのマスケット「ドアラ」のカバースタンドが付いたパリエーションも販売予定。

日常使いの有松絞を



ロビー

○「伝統工芸品は高いイメージがある。伝統を守りつつも、日常で使える商品をつくりたい」と話すのは、有松絞の手ぬぐいを販売する、まり木綿代表の伊藤木綿(ゆう)さん。有松絞は藍色のイメージが強いが、同店では黄、赤、青などカラフルな商品が並ぶ。価格は800円程度から。名古屋市内の百貨店から販売依頼が舞い込むなど、商品は折り紙付き。「九州や東北から足を運んでくださる方もいる」という。

○名古屋芸術大学を卒業後、同級生の村口実梨(まり)さんと2人で起業した。分業が進む産地だが、染色から販売まで一貫して手がける。特に名古屋鉄道有松駅前のお店は、商品開発の生命線。顧客の声を吸い上げ、ストールや洋服など手ぬぐい以外の商品を開発販売してきた。「これからもお客さまの声を聞きながら、品ぞろえを増やしたい」と意気込む。